

2019年2月12日

樋口裕城

私の専門は開発経済学です。開発経済学とは、貧しい国はなぜ貧しいのか、貧しい国が豊かになるためには何をすればよいのか、を経済学の考え方に基づいて考える学問です。

#### <開発経済学とは>

世界銀行の推計によると、今でも世界には一日 1.25 ドル未満で暮らす最貧困状態にある人々が 12 億人もいます。そう言われても、みなさんには遠い国の話に聞こえるかもしれませんが。しかしながら、つい半世紀あまり前の日本も同じような貧しい状況にありました。第二次世界大戦直後の 1946 年の東京では、一人あたりの摂取カロリーがわずか 1,352 キロカロリーであったという記録が残っています。戦後の急速な経済発展のおかげで、今日のみなさんの生活があるのです。日本が貧しい国からどうやって豊かな国になったのか、アフリカの国々はなぜ今でも貧しいのか、といったことを学ぶことで、今日の世界経済への理解を深めることを目指します。

より具体的には、

- ・ どうやって貧困を測定するのか？どのように国際比較するのか？
- ・ なぜアフリカには今でも学校に行けない子どもたちや、HIV/AIDS で亡くなる人がたくさんいるのか？
- ・ なぜインドには IT 産業で潤っている地域もあれば、飢えている地域があるのか？
- ・ なぜ戦後の日本は急速な経済発展を遂げられたのか？
- ・ 開発援助機関（JICA・世界銀行・NGO）は貧困削減のために何をしているのか？そして何をすべきなのか？

といったことを学びます。

#### <私の研究>

まず、現地に行ってインタビュー調査を行い、それに基づいて設計した質問票（アンケート）を用いて、データを集めます。対象は、ベトナム・タンザニア・アルゼンチンの中小企業の経営者、バングラデシュの農家、フィリピンの工場労働者などです。こうした人たちから集めたデータを、計量経済学のツールを用いて統計的に分析します。分析結果は、基本的には英語での論文にしています。途上国の貧困削減に貢献できるような政策提言につながる研究をしたいと思っています。

私の研究内容の詳細については、以下の私のホームページを参考にしてください。日本語での記事へのリンクや参考書の紹介もあります。

<https://sites.google.com/site/yukihiguchipage/>